

令和4年度

事業報告書

[令和4年7月1日から令和5年6月30日まで]

一般財団法人 神道文化会

令和4年度事業報告書

I、実施事業(継続事業1 定款第4条1号から第5号)

1、神道の思想・文化に関する研究及び情報提供

(1) 学術研究書「神道文化叢書」の企画・編集

神道の思想や文化に関する高度な学術研究について公表の機会を提供するため、「神道文化叢書」を刊行している。本年度は第48輯『伊勢御師と宇治山田の学問』窪寺恭秀著を令和5年6月30日に刊行。

(600部・関係者、会員等に配布)

(2) 機関誌「神道文化」第35号の発行

神道文化の普及、神道精神の昂揚を目的として、機関誌を発行している。随筆、対談(座談会、学術小論文等)を掲載。本年度の座談会は「近現代の神葬・墓制と神道文化」と題し下記の通り開催された。令和5年6月30日発行。

(1000部・関係者、会員等に配布)

(3) 座談会の開催

- ・日時 令和5年3月1日(水)午後6時30分から午後9時
- ・場所 リモート(zoom)形式による開催

- ・出席者 武田秀章氏(國學院大學教授・本会理事)、土居 浩氏(ものづくり大学教授)
松本 丘氏(皇學館大学教授)、星野光樹氏(國學院大學准教授)、半田竜介氏
(國學院大學助教)、司会/藤本頼生氏(國學院大學教授・本会理事)

・テーマ 「近現代の神葬・墓制と神道文化」

近年、「墓じまい」といった言葉が使われ始め、少子高齢化や様々な社会情勢の変化から家墓の維持が困難な状況となりつつある。また昨今の新型コロナウイルスの影響も相まって葬儀の形式が簡素化に向かう中、本会では近現代の神葬・墓制と題し座談会を開催。出席者それぞれの専門分野から発言し、議論を展開した。

なお、本年も、新型コロナウイルスに配慮しリモートでの開催となった。

(4) 講演会の開催

毎年1回「神道文化」をテーマにした公開講演会や大学教授らによるミニシンポジウムを開催している。本年度も、昨年に引き続き新型コロナウイルスの感染を考慮し、例年のような会場を設けての講演会開催は中止、本会のWebサイトからの動画を掲載した。

- ・対象：一般公衆(ホームページ、ダイレクトメール、神社新報等によりWeb開催を告知)

《Web. 講演会》

- ・日 時 令和 5 年 6 月 10 日（土）午前 10 時配信（約 2 時間）
- ・テーマ 「装束と神道文化」
- ・講演 I 「神職と有職故実(装束編)」
小林宣彦氏（國學院大學准教授）
- ・講演 II 「山科・高倉家と衣紋道」
田中 潤氏（学習院大学史料館研究員）

なお、本講演会は講録を作成し、会員をはじめ一般の方々にも配布できるものとして企画している。

2、神道文化功労者表彰

毎年、当会の「神道文化表彰規程」に基づき、神道文化の昂揚、普及、研究に功績のあった個人もしくは団体を選定し、表彰を行っている。

表彰対象は以下の通りである。

- 1 多年神道文化高揚に精励し、その功績拔群なる個人もしくは団体
- 2 神道文化に関する学術研究において、その功績の顕著なるもの
- 3 神道ならびに神社に関する広報・教化活動において、その功績顕著なるもの
- 4 神道関係団体において、その活動が優秀なるもの
- 5 神道文化高揚のため功労あるもの

本年度支給総額：50 万円。表彰選考委員会開催（令和 5 年 4 月 13 日）において決定。

（表彰式開催：令和 5 年 5 月 26 日 於・東京大神宮マツヤサロン）

《令和 4 年度被表彰者名》

(1)大野由之殿

(神 宮)

氏は、平成 10 年に皇學館大学院文学研究科神道学専攻修士課程を修了後神宮に奉職。神明奉仕の傍ら、神宮教学ならびに神社神道の教学のさらなる興隆・発展のため、古代から現代に至るまでの諸種の文献を博捜し神宮にかかる史的研究を現在にいたるまで続けている。また、多年に亘り神宮司庁教学課研究員を兼任し神宮大麻にかかる史料研究、戦後、国家との関係が分離された神宮の政教問題にも従事し、いずれも私家版ではあるが『神社神道の教学と神学』、『政教分離と神宮制度』を刊行している。その弛まざる神道への学問研鑽、神道の真理探究が必要とされる神職の模範とも言うべきあり方を体現している。また、昨年は神宮大麻頒布百五十年の佳節にあたり、伊勢神宮崇敬会から刊行した『神宮の原点と本質』は、端的に理解しやすく述べられた内容で好評を博し、頒布活動の一助となっている。

記念品料 10 万円支給

(2)中村賢一殿

(三重県)

氏は、伊勢市に本社を置く出版社の代表として、長年、伊勢市を中心に、伊勢志摩地域の歴史文化を雑誌・ニュース紙、図書の編集・刊行を通じて積極的に広報活動を進め、その存在は地元はもとより全国的に知られており、神道文化・神社の発信と信仰に多大な寄与をしてきたと評価できる。氏が代表を務める伊勢文化舎は、昭和 56 年に中村氏等が、旅人と伊勢を結ぶ雑誌『伊勢志摩』を刊行したことに始まり、同 58 年に伊勢志摩編集室として独立し今日に至る。氏の編集にかかる伊勢神宮関係の出版物は、一般向けに読みやすく地元に着したプロのカメラマンによる優れた写真を多く掲載したもので、確実な取材に基づいた情報が収まり、この四十年間に多くの刊行物をはじめ、タブロイド判機関紙『いせびとニュース』（全国に配布）、「伊勢講暦」（カレンダー）等も発行している。氏は、伊勢の神宮広報誌『瑞垣』の編集協力にも携わり、その活動が、神道文化に貢献していると評価できる。

記念品料 10 万円支給

(3) 宮城県神社庁神葬祭調査研究委員会殿

(宮城県)

宮城県神社庁は、平成 6 年より 7 年間にわたり神葬祭実態調査を行うなど、県内の実態把握と調査研究に努めてきた。しかし近年は社会情勢の変化により葬儀の在り方が大きく変容してきていることから、現下の社会情勢を踏まえた神葬祭のガイドラインの策定を検討すべく、令和 2 年秋に「宮城県神社庁神葬祭調査研究委員会」を設置し、その成果を冊子『宮城の神葬祭 みはぶりのみしわざ』を刊行した。神葬祭の形態は、従来地域で培われた慣例や風習が加わることにより、全国で多種多様であるが、本書は、県内における、代表的な執行例と神社本庁基準を併記して編集され、管内ガイドラインとして有用な内容となっている。また教学上の諸問題や今後の検討課題にも触れ、県内はもとより全国における神葬祭研究の基礎資料ともなることが期待される。

記念品料 10 万円支給

(4) 櫻井弘人殿

(長野県)

氏は長野県飯田市遠山郷の出身で、幼い頃から地元の霜月祭りに親しみ、霜月祭りを学ぶべく國學院大學に進んだ。卒業後は、故郷に帰り、発掘調査のアルバイトなどをするうち飯田市美術博物館に学芸員として勤務し、霜月祭りの研究に努めた。退職後も研究を続けその成果を『遠山霜月祭の研究』と題し出版。その中に新たに収められた論文は、神々らの「面」の奉納歴から導き出した祭りの形成プロセスなど、神楽研究で新たな視点を示したと評価され、母校國學院大學から博士号（民俗学）を授与され、また、折口信夫に師事した民俗学者西角井正慶記念賞も受賞した。

記念品料 10 万円支給

(5) 長浦ちえ 殿

(福岡県)

氏は、水引文化研究者であり、水引デザイナーとして活躍している。昨年 6 月に出版された『日

本水引』は、日常生活の中で頻繁に使用される水引のルーツについて考察を行っている。日本では人にもものを贈るとき、必ず水引きを結び、熨斗をつける。外国にもリボンを結ぶことはあるが、水引は日本独自のもので、結び方、色目、デザインなど様々な習俗とともに日常生活に定着している。氏は、水引を「結ぶ、折る、贈る、日本のかたち」と表現するが、自ら水引の生産地に足を運び、ルーツを探し、神々への捧物である幣帛の発見に至る。祭りにささげられる幣帛に、水引の原点を見出している。神道文化とのかかわりは深いものがある。

記念品料 10 万円支給

3、助成金支給事業

(ア)神道芸能普及費の支給

当会の「神道芸能普及費支給規程」に基づき、神道芸能の普及・昂揚のため活動している個人及び団体に対して、援助金を支給し、その活動を支援している。支援対象は以下の通りである。

- 1 歴史的民俗的に神道及び神社とかかわりある音楽ならびに舞踊(その他これに類するものを含む・以下同じ)
- 2 神道行事に関わる音楽ならびに舞踊
- 3 神社祭祀に関わる音楽ならびに舞踊
- 4 神道文化昂揚普及に関わる音楽ならびに舞踊

本年度支給額：20 万円 表彰選考委員会開催 (令和 5 年 4 月 13 日)において決定
(伝達式開催:令和 5 年 5 月 26 日 於・東京大神宮マツヤサロン)

《令和 4 年度受給者名》

(1) 諏訪神社神楽舞 殿 (千葉県)

千葉県君津市鎮座の諏訪神社は、その創建は定かではないが、小糸地区を含む元郷社で、毎年 8 月第四日曜日に開催される例大祭では、御近様の大祭り(オチカンサマノオマチ)とも呼ばれ、小糸地区も含む郷社のため、戦前の祭りは盛況を極めたと伝えられる。現在の祭礼は、幟旗の奉納に始まり、つづいて山車、神輿、子供神輿と太鼓が境内に入り囃子を演奏した後に、神楽獅子舞が奉納される。神楽獅子舞は、青年会を中心に毎年 7 月から練習に入り、祭りの日を迎える。神楽舞は百年以上の歴史を有する。例大祭のほかにも、十五夜祭と夜神楽も仲秋の名月に奉納される。

普及費 10 万円支給

(2) 風流節頭保存会殿

熊本県荒尾市鎮座の野原八幡宮は、平安時代初期に今の地に遷座されたと伝えられる。かつて荒尾郷と呼ばれた地域の総氏神(一の宮)であり、地元では、「のばらさん」の愛称で親しまれて

いる。県の重要無形文化財にも指定される「風流」は、770年以上前から口伝などにより残されてきたもの。和紙でできた獅子頭をかぶった、子供二人により大祭で奉納されている。令和3年には国指定重要無形文化財、令和4年にはユネスコ無形文化遺産に指定された。活動としては、毎年10月15日に執行される大祭・通称「のぼらさん」で奉納する。ここ数年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自粛してきたが、令和4年は状況が下火となったため、「風流」は例年通りの地区、「節頭行事」は生源寺地区のみに奉納された。今後も歴史あるこの行事を絶やすことなく正確に継承することを目的に活動している。

普及費10万円支給

II、その他の事業(出版等)

本会は、児童向け教化冊子「杜のシリーズ」8冊を神道青年全国協議会と共同で企画・発行しているが、平成24年度より、良書の普及を目指し、神道文化叢書第1輯の『神道百言』、同第6輯『皇室の御敬神』、同第7輯『続神道百言』を復刻、出版し好評を得ている。本年度は、増刷なし。

なお、昨年度の公開講演会「刀剣と神道文化」の講録を発行し、1冊500円にて販売。各会員に1冊贈呈。

以上